

報告

寸劇の評価（櫛引地区）

実施日：平成 21 年 12 月 5 日（土）

対 象：「櫛引地域女性のつどい」講演会参加者 52 名（回収率 94%）

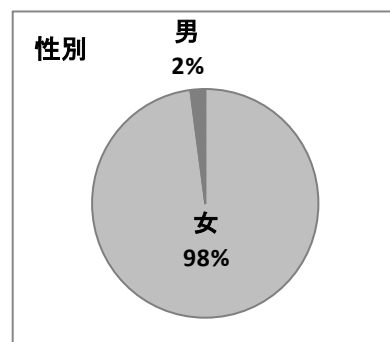
方 法：自記式質問紙調査

◆回答者の属性

回答者数：49名（回収率 94%）

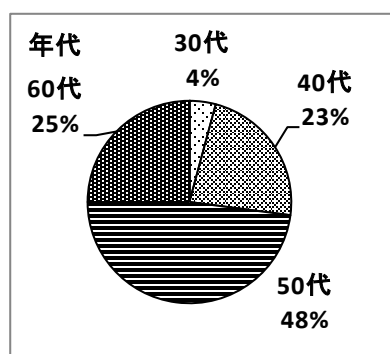
<性別>

回答者を性別ごとにみると、女性が98%、男性が2%であった。



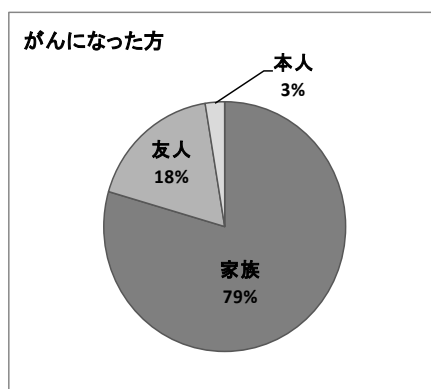
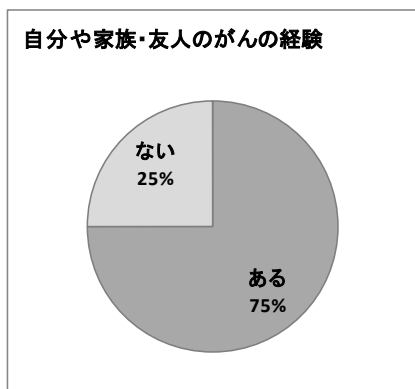
<年代>

回答者の年齢は、50代が48%と最も多く、ついで60代25%、40代23%、30代4%であった。



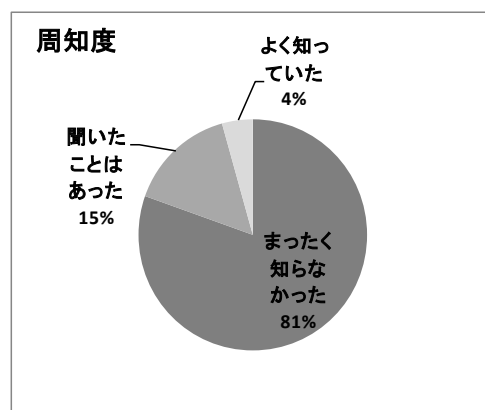
<がんの経験>

自分や家族・友人ががんになった経験について、「ある」と回答した人は75%であった。そのうちがんになった人は、「家族」と回答した人が79%と最も多かった。

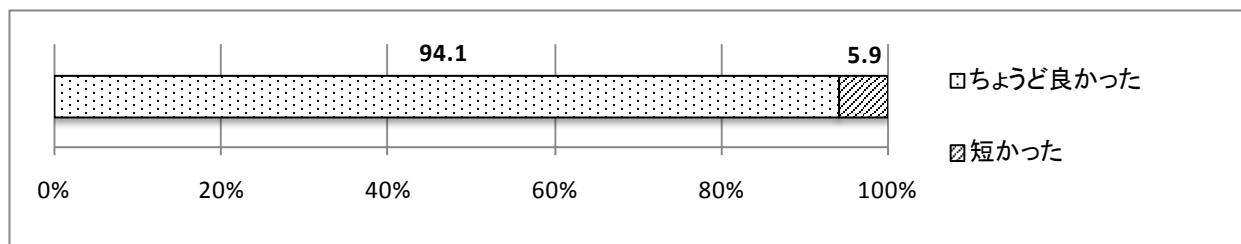


<サポートセンターの周知度>

この地域に緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川があることを「まったく知らなかった」と回答した人は81%、「聞いたことはあった」と回答した人は15%、「よく知っていた」と回答した人は4%であった。



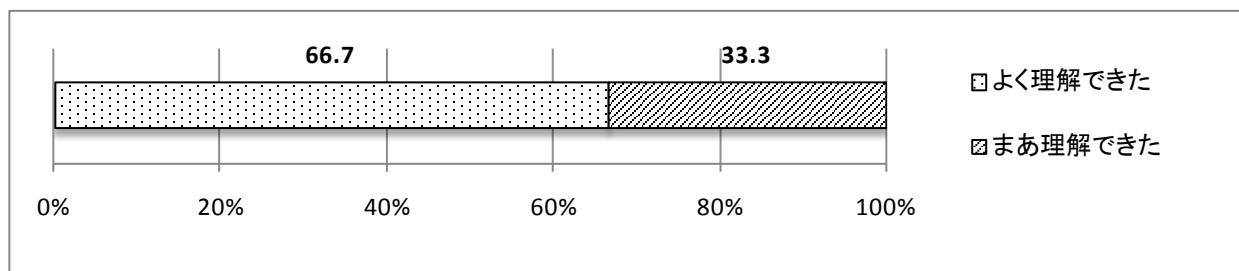
◆全体の時間について



寸劇全体の時間について、「ちょうど良かった」と回答した人は 94%、「短かった」と回答した人は 6%であった。

◆理解度

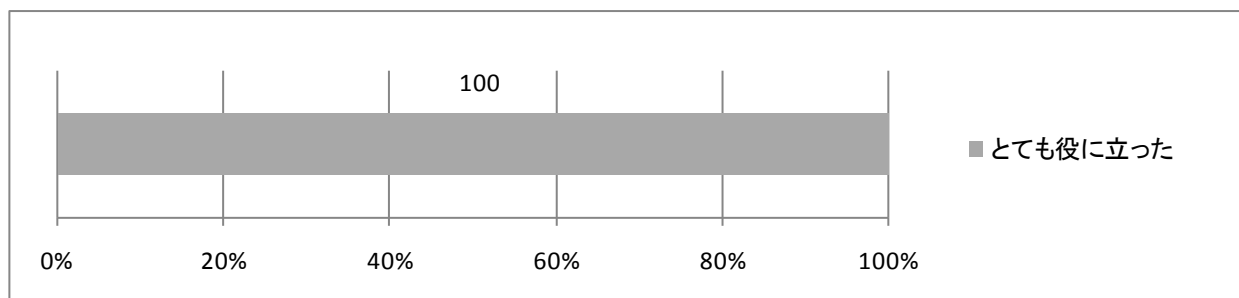
- 寸劇の理解度



寸劇の内容は、「よく理解できた」と回答した人は 67%、「まあ理解できた」と回答した人は 33%であった。

◆有用度

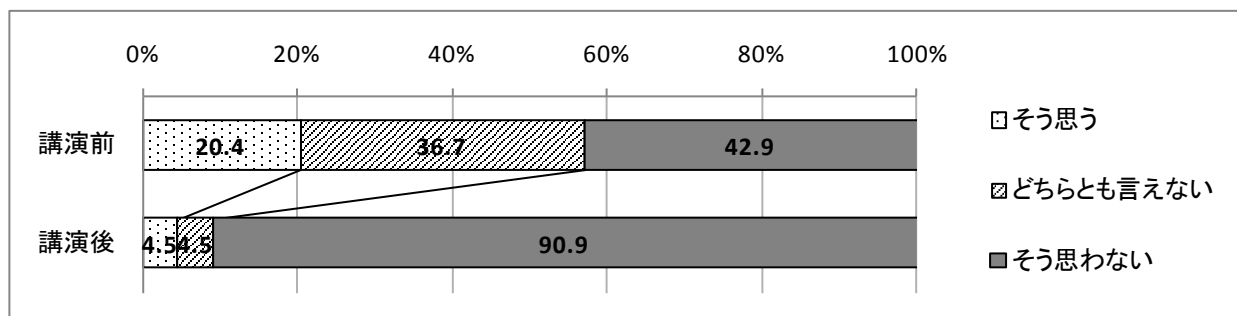
- 寸劇の有用度



寸劇は、全員が「とても役に立った」と回答した。

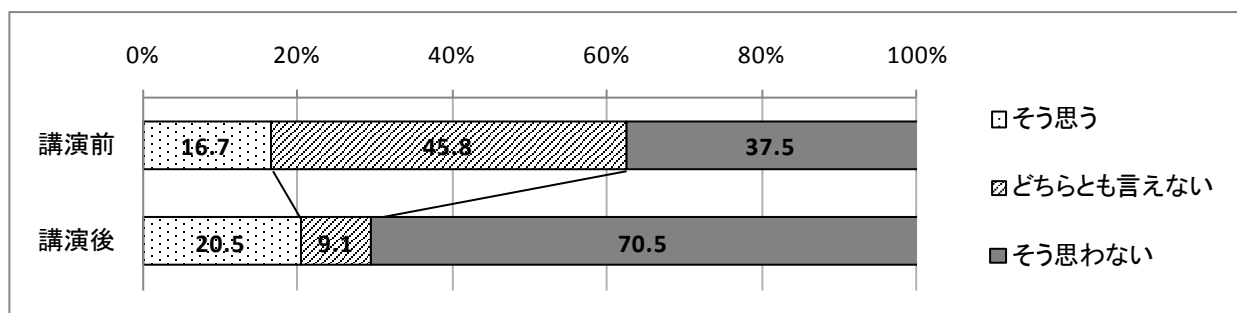
◆講習会前後の変化

- がんになっても、病名を告知されたくない



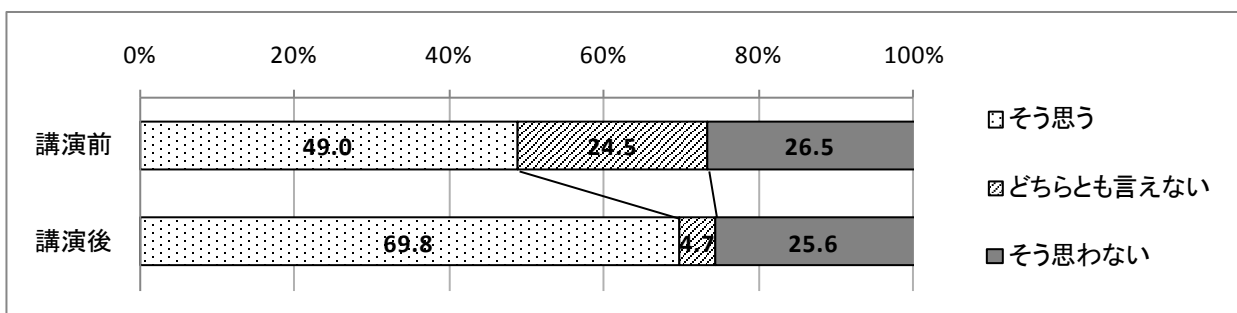
「がんになっても、病名を告知されたくない」という設問に対し、「そう思わない(告知を希望する)」と回答した割合は、43%(講演前)から 91%(講演後)に増加した。

- 緩和ケアは末期の患者さんだけが受ける医療・ケアである



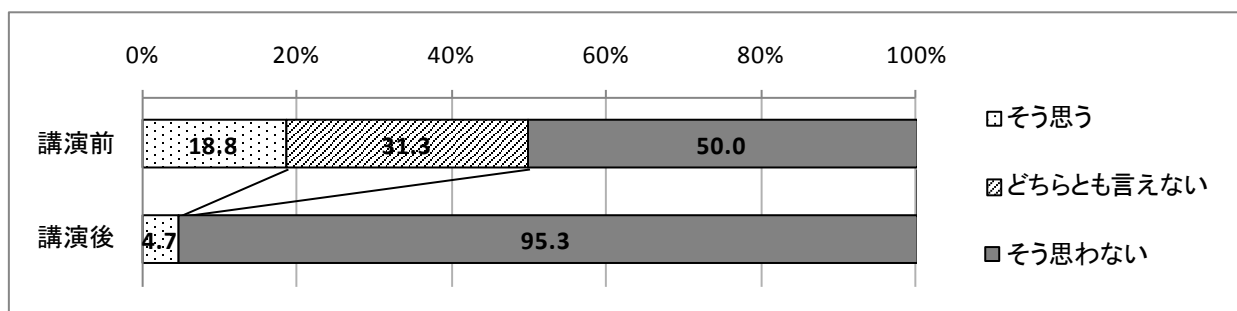
「緩和ケアは末期の患者さんだけが受ける医療・ケアである」という設問に対し、「そう思わない」と回答した割合は、38%(講演前)から 71%(講演後)に増加した。

- 緩和ケアは、がんに対する治療と一緒に行うものである



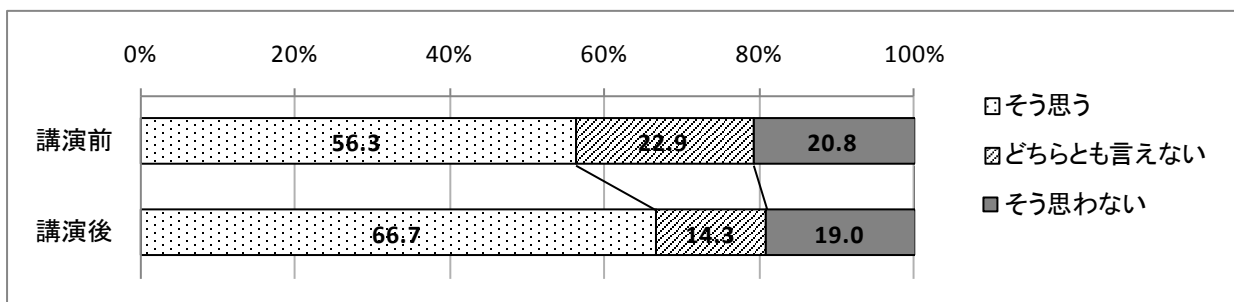
「緩和ケアは、がんに対する治療と一緒に行うものである」という設問に対し、「そう思う」と回答した割合は、49%(講演前)から 70%(講演後)に増加した。

- 医療用麻薬を使用すると中毒になる



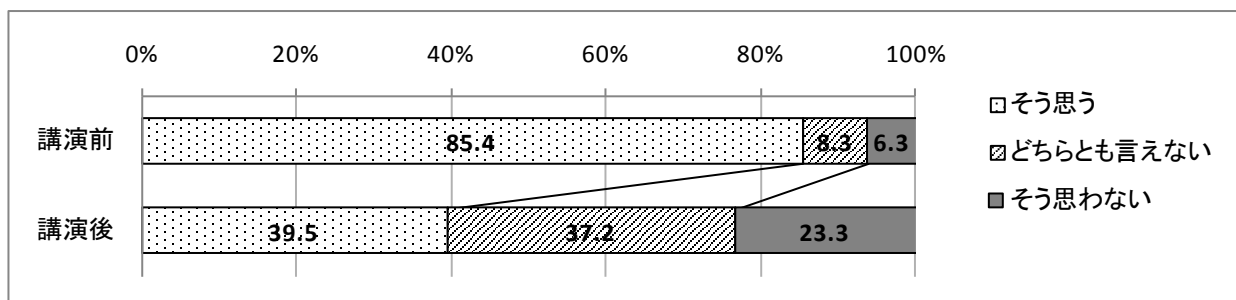
「医療用麻薬を使用すると中毒になる」という設問に対し、「そう思う」と回答した割合は、19%（講演前）から 5%（講演後）に減少した。また、「そう思わない」と回答した割合は、50%（講演前）から 95%（講演後）に増加した。

- がんになっても、亡くなる最期は自宅で療養したい



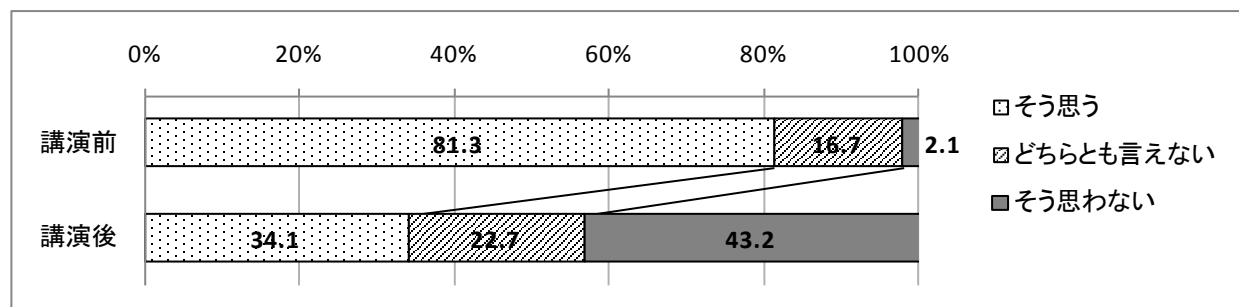
「がんになったら、亡くなる最後は自宅で過ごしたい」という設問に対し、「そう思う」と回答した割合は、56%（講演前）から 67%（講演後）に増加した。

- 自宅療養は、介護してくれる家族に負担が大きい



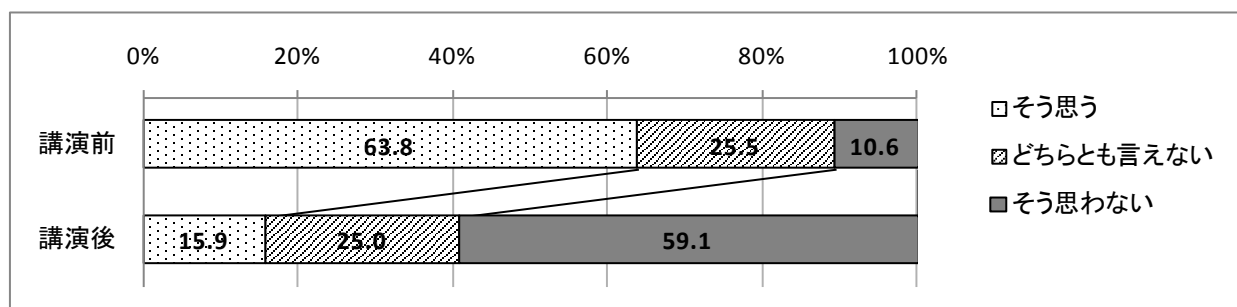
「自宅療養は、介護してくれる家族に負担が大きい」という設問に対し、「そう思う」回答した割合は、85%（講演前）から 40%（講演後）に減少した。

- 自宅では、症状が急に悪くなったときの対応が不安である



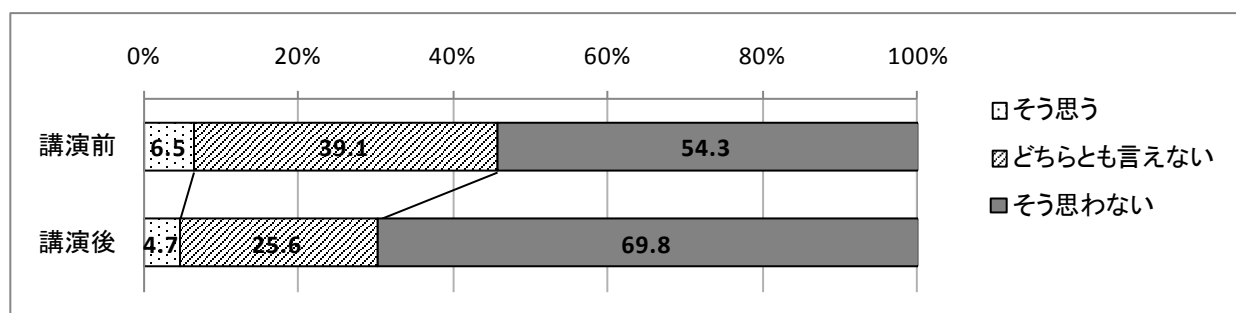
「自宅では、症状が急に悪くなったときの対応が不安である」という設問に対し、「そう思う」回答した割合は、81%（講演前）から 34%（講演後）に減少した。

- 自宅では十分に苦痛をやわらげることができない



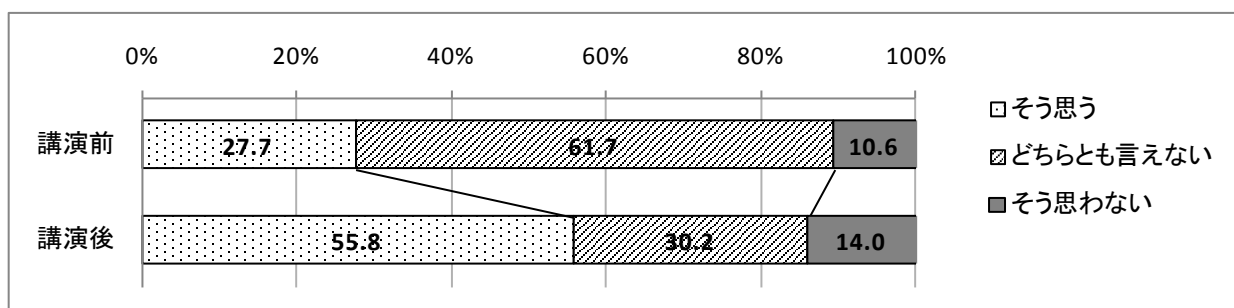
「自宅では十分に苦痛をやわらげることができない」という設問に対し、「そう思う」回答した割合は、64%（講演前）から 16%（講演後）に減少した。

- 自宅で最期を看取ることは、世間体が悪い



「自宅で最期を看取ることは、世間体が悪い」という設問に対し、「そう思う」回答した割合は、7%（講演前）から 5%（講演後）に減少した。

- この地域ではがんになっても安心して過ごせる



「この地域では、がんになっても安心して過ごせる」という設問に対し、「そう思う」回答した割合は、28%（講演前）から 56%（講演後）に増加した。

◆ 市民公開講座前後で統計的に有意な変化があった項目

- がんになっても告知されたくない↓
- 緩和ケアは、末期の患者さんだけが受ける医療・ケアであると思わない↑
- 医療用麻薬を使用すると中毒になる↓
- 自宅で療養することは家族への負担が大きい↓
- 自宅では症状が急に悪くなったときに不安↓
- 自宅では十分に苦痛をやわらげることができない↓

◆ 変わらなかった項目

- 緩和ケアは、化学療法や放射線治療など、がんに対する治療と一緒に行うものである
- 亡くなる最期は自宅で過ごしたい
- 自宅で最期を看取ることは、世間体が悪い
- この地域ではがんになっても安心して過ごせる

□ □ □ □ □

	告知されたくない(後) - 告知されたくない(前)	緩和ケアは末期の患者さんだけが受ける医療・ケア(後) - 緩和ケアは末期の患者さんだけが受ける医療・ケア(前)	緩和ケアはがんに対する治療と一緒に行うもの(後) - 緩和ケアはがんに対する治療と一緒に行うもの(前)	医療用麻薬を使用すると中毒になる(後) - 医療用麻薬を使用すると中毒になる(前)	亡くなる最後は自宅で過ごしたい(後) - 亡くなる最後は自宅で過ごしたい(前)	自宅療養は家族の負担が大きい(後) - 自宅療養は家族の負担が大きい(前)	自宅では症状が急に悪くなったときに不安(後) - 自宅では症状が急に悪くなったときに不安(前)	自宅では十分に苦痛をやわらげることができない(後) - 自宅では十分に苦痛をやわらげることができない(前)	自宅で最後を看取ることは、世間体が悪い(後) - 自宅で最後を看取ることは、世間体が悪い(前)	この地域ではがんになっても安心して過ごせる(後) - この地域ではがんになっても安心して過ごせる(前)
Z	-4.118 ^a	-2.355 ^a	-1.139 ^b	-3.613 ^a	-.719 ^b	-3.872 ^a	-4.512 ^a	-4.617 ^a	-1.015 ^a	-1.525 ^b
漸近有意確率(両側)	.000	.019	.255	.000	.472	.000	.000	.000	.310	.127

a. 負の順位に基づく

b. 正の順位に基づく

c. Wilcoxon の符号付き順位検定

◆ 自由記載

- ・ 寸劇についてですが、内容は良かったのですが、少し声が聞き取りにくい人がいたのが残念でした。もうちょっとはっきりしたら良かったかも（医療費等一番よく聞きたい所だったので）
- ・ 来て良かったの一言です。寸劇はとてもわかりやすかった。ありがとうございました。知らない事がとても多かった。
- ・ がんになったら心配と不安で一杯になりますが、今日の講演で緩和ケアについて寸劇もあって大変良くわかりやすく、不安が少し緩和されました。
- ・ 講演、寸劇良かった。ためになった。
- ・ がん緩和ケア庄内プロジェクトがあることも初めて知りました。自分がもしがんになったときは是非お願いしたいものだと思います。
- ・ わかりやすい寸劇で大変良かったです。
- ・ 方言が出てとても良くわかった。
- ・ 大変わかりやすく良かった。
- ・ パンフレットよりも寸劇の方がやはりわかりやすかった。こんな形で庄内地区のひとたちががんに対する心配が少なくなり治療に専念できればとてもいいことだと思います。先生方の熱演が伝わってきました。
- ・ すばらしい寸劇でした。
- ・ がんのケア経験はありませんが、今日の講演を聞いてとても良かった。
- ・ 寸劇が大変良かった。特に専門用語についての説明が随所にあり、医療について理解できた。
- ・ とてもわかりやすく大変勉強になりました。
- ・ ユーモア交えた寸劇大変良かった。
- ・ アットホームな感じ、地域密着型（方言）がとても良かった。
- ・ とても良かった。みんなに教えたいと思います。
- ・ とてもこまやかな寸劇で理解できました。講演の方はもう少し医師としての患者とのでき事も聞きたかったです。ありがとうございました。
- ・ とても良かったです。
- ・ 緩和ケアについて良くわかりました。
- ・ 人と人とのつながりが大事だし、頼るときは頼った方が良いと思った。また、甘えたりも大事だ。
- ・ 大変良かったです。
- ・ わかりやすい寸劇、講演で緩和ケアにかんして理解する事ができました。
- ・ 大変わかりやすく寸劇頂いて、生きる元気が出来ました。頂いたペンを毎日お守りに持っていたいです。
- ・ 最近入院を希望してもなかなか入院させてくれないと聞きましたがその辺はどうでしょうか？
- ・ 寸劇とても素晴らしかった。面白かった。

- ・寸劇を見て, 患者のお母さんの気持ちがじつに良くこちらにも伝わってきました。とてもわかりやすい! 緩和ケアの手紙の紹介も良かった!!
- ・少しは役に立ちました。